ふみびと

新しい日々へ

第２７０号
発行所
文通村事務局
編集　広報部
千葉県成田市

心の中での明日への引越し

出会いと別れのちょうど境目に当たるその作業は、これまでを思い出にする寂しさと、これからを創っていく不安をほんの少し紛らわせてくれる「忙しさ」でもあるかもしれません。

バタバタと荷造りをしていると、気付けば感傷的になるのも忘れて時間に追われるように知らず知らずに「新しい生活」を作っているように感じます。

そんな中でも荷物を整理していると、忘れていた「思い出」がふと顔を出して、つい前に動き出していた時間を止めてしまうことも。

撮ったことも忘れていたような何気ない写真だったり、何で買ったのか自分でもわからない雑貨だったり。部屋に残った「思い出」と再会することができるのも、引越しの一つの楽しみなのかもしれません。

今はもう引越しをする必要も理由もなくなったけれど、ふとそんな「楽しみ」に触れたくなることがあります。

社会人になると新しい出会いが毎年あるわけでもなく、別れを惜しむ機会もそれほど多くなくなるけれど、ちょっと昔の自分に会いにいくのも新しい自分を見つけるきっかけになることも。

明日の「今日」に何を持っていくか、「昨日」になる今日に何を置いていくか。

そんなことを無意識に考えながら新しい日々への準備をしているような気がします。

4月になってもいつも通りの日常。大人になるといつしかそれが当たり前になるけれど、環境は変わらなくてもたまには部屋の思い出を紐解いてみるのもいいかもしれません。

明日への「引越し」。ほんの少し気分を変えるちょっとした「引越し作業」を。

一年分の経験から

日差しもずいぶん柔らかくなり、すっかりと春の空気だ。心地よさに目を細めると同時に、一年前を思い出す。ちょうど自粛生活が始まった頃のことを。外の空気は柔らかいのに、いつもどこかで不安と緊張を抱え、季節をどう味わえばいいのかわからないような、そんな時期だった。これまでたくさんの春を体験してきたはずなのに、たった一度だけの一年前の春のことばかり思い出してしまう。そのくらいに、あの春の記憶は重たい。今年の春も、何のためらいもなく楽しむというわけにはいかないようだ。もうしばらく、外出や人との交流に気を使う日々が続くのだろう。けれども、私たちには一年分の経験がある。不安定な中でも、日々を楽しむ技術は上がっているはずだ。今年こそ、せっかくの素敵な季節をたっぷりと味わって、重い春の記憶を塗り替えていきたい。

風にゆられて誰かに届け！ 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。

誰に届くかは風次第…。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名にと書いて、差出人名を書くだけです。あとは、事務局に宛の筒さいで流すと局用封下ま交いまり。

次回発送日

3月の発送日は15日、31日です。送りたいお手紙がある場合は、それぞれ2日前の13日、29日までに事務局に到着するよう余裕をもってポストに投函してください。

言葉の冊子

先日、募集した言葉の冊子「今年の目標」には本当にたくさんの方に投稿いただき、ありがとうございました！投稿の全てをWEB上からご覧いただけます。今回の言葉の冊子が交流のきっかけにつながれば嬉しいです。